

World Vision

この子を救う。未来を救う。

Closure report 2025

終了報告書

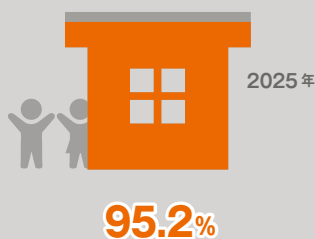
タンザニア連合共和国
ムキンガ地域開発プログラム
TZA-192736 (2009年～2025年)



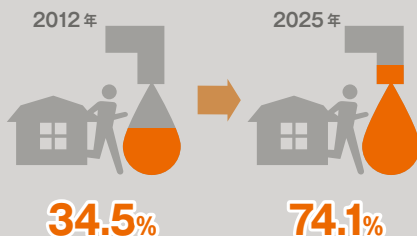
ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

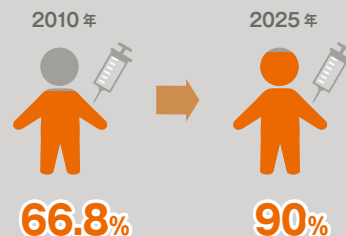
小学校に入学後、授業に
参加している子どもの割合



徒歩30分圏内に
水源がある世帯



適切に予防接種を受けた
5歳児の割合



Water



水衛生

安全な水を届け、
健康を支える

以前は生活用水・飲用水の入手が深刻な課題でした。近場に水源がないため、人々は遠く離れた川まで往復約5時間かけて歩き、安全とは程遠い水質の水をくんでいました。このため、多くの子どもたちが下痢やコレラなどを発症し、命を落とすこともありました。ワールド・ビジョンは、雨水を溜めて活用する給水設備の建設に加え、住民を中心とした水管理委員会を設立し、安全な水の安定供給と、設備の適切な維持管理を実現しました。家庭だけでなく、学校や診療所などでも安全な水が使えるようになり、また、長年にわたる手洗いなどの衛生行動の普及活動によって、地域住民・子どもたちの健康が改善されています。



支援前

人々が生活や飲用に使っていた水



支援後

学校に整備された水道で安全な水を使う子どもたち

成果

徒歩30分圏内に
水源がある世帯



34.5%



74.1%

Livelihood



生計向上

多様な研修を通じて
収入を増やす
体制作りを支援

地域では住民の多くが農畜産業で生計を立てていますが、生産性は低く、また銀行などから資金を借りることもできなかったため、人々は深刻な貧困に直面していました。ワールド・ビジョンは、多岐に渡る農業・畜産研修を実施したほか、毎月住民が少額を持ち寄って積み立てる貯蓄グループを形成し、地域の人々が互いに支えあいながら、融資を受けることができる仕組み作りを進めました。こうした取り組みによって農作物や牛乳・卵の生産量は飛躍的に増加し、収入源を多様化することもできました。各家庭では子どもに栄養価の高い食事を食べさせ、学費を支払えるようになるなど、子どもたちの生活に改善が見られています。



支援後

生産性の高い種子（トウモロコシなど）を手に笑顔を見せる農家の人々



支援後

女性による貯蓄グループの活動

成果

年間を通して
十分な食料を得られる世帯



34.8%



63.7%

Health & Nutrition



保健・栄養

地域に根ざした
医療体制の構築

以前、この地域には医療施設がありませんでした。緊急時には約8キロ離れた隣の村にある病院まで、舗装されていない道を移動しなければならず、その道中で患者や妊婦が命を落とすこともあり、大きな問題となっていました。ワールド・ビジョンは地方政府や住民組織と協働し、地域内に3つの診療所を建設したほか、医療設備の整備や医療スタッフの雇用など、地域医療の体制を整えました。その結果、今では長時間移動することなく必要な医療サービスを受けることができるようになりました。また子どもの予防接種を推進し、地域の子どもの健康が守られているほか、医療従事者は住民組織の代表と定期的に話し合いを行い、地域の保健に関する課題に対応しています。



支援後

診療所で赤ちゃんの体重測定を行う様子



支援後

整備された医療施設の手術室

成果

適切に予防接種を受けた
5歳児の割合



66.8%



90%

子どもを医療施設で
出産できる母親



62.6%



91.3%

Education



教育

安心して学べる学校と
環境作りを支援

以前は、校舎や学校設備、教材などが不足しており、子どもたちは狭くて汚れた教室で肩を寄せ合いながら授業を受けていました。空腹のまま通学する子どもも多く、教員も十分な指導法を学ぶ機会がありませんでした。こうした課題を解決し、子どもたちが安全で楽しく学べる環境作りのため、ワールド・ビジョンは地方政府と連携し、教室の増設や机の提供、トイレや給水設備の整備を進めました。また、教職員やPTAとも協力して学校給食の提供を始めたことで、子どもたちは安心して勉強に集中できるようになりました。さらに、教員と保護者向けに研修も行い、今では子どもたちが意欲を持って読み書きに取り組める学びの場が整っています。



支援前

古く、狭い教室で学ぶ様子



支援後

整備された教室で学ぶ子どもたち

成果

小学校に入学後、授業に
参加している子どもの割合



95.2%

未就学児の学びの重要性を
理解している保護者の割合



97.4%

マネージャーよりごあいさつ



ムキンガ地域
開発プログラム
マネージャー
サミュエル・チャールズ

活動開始当初、ムキンガ地域では安全な水や医療へのアクセス不足、教育の質の低さ、衛生や子どもの保護に対する意識の低さなど、多くの課題を抱えていました。しかしワールド・ビジョンの活動によって給水設備が作られ、診療所が建設され、今では、女性や子どもたちが長い距離を歩いて水をくみに行くといった、大きな負担を強いられることはなくなりました。また自然災害や気候変動といった予測困難な事態にも、地域全体で対応できる力が育まれています。皆さまの温かいご支援が、ムキンガ地域の人々に希望と力を与えてくれました。長年にわたり地域を支えてくださったチャイルド・スポンサーの皆さまに、心より感謝申し上げます。

地域代表者からのごあいさつ



地域開発委員会代表
アスマニ氏

ムキンガ地域では、教育、生計向上、子どもの保護など子どもを取りまく環境が大きく改善しました。例えば教育分野では、新しい教室や机の整備、教員の研修、保護者への啓発が進んだことで、子どもたちがより良い環境で学ぶことができるようになりました。ほかにも住民同士が少額を出し合う貯蓄グループが結成され、融資を得られるようになったり、子どもの保護に関する意識が高まったりと、さまざまな前向きな変化が見られました。ムキンガ地域がこうして歩んでこられたのは、チャイルド・スポンサーの皆さまのおかげであり、ご支援による数々の成果は、これからも次の世代へと受け継いでいきます。皆さまのご支援に心より感謝いたします。

皆さまとともに歩んだ16年間の支援と成果

準備期

2009 年度

▼
2012 年度

- 支援対象地域での状況やニーズの調査
- 地方自治体および地域住民とともに、調査結果に基づくプロジェクト実施計画の立案
- 地方行政、地域住民、関係者との協力体制を構築
- 支援計画を遂行するためのプロジェクト委員会設立、会議の実施



支援前の小学校の校舎

第1期

2013 年度

▼
2015 年度

- 小学校に3つの教室を建設し、水タンク1基を設置
- 地域リーダーや保護者を対象とした、子どもの教育の重要性に関する研修を実施
- 農業・畜産業の生産性と収穫量の向上を目的とした研修を実施
- 移動診療所を支援し、5歳未満の子どもに対する予防接種とビタミン剤を配布
- 医療従事者および保健スタッフを対象とした研修を実施
- HIV/AIDS予防のための啓発キャンペーンを実施
- 小学校に教材や学習に必要な資材を提供



乳牛の支援を受けた家族

第2期

2016 年度

▼
2020 年度

- 青少年を対象とした、ライフ・スキル(※)教育の研修を実施
- 地域住民と協働し、学校給食提供に向けた働きかけを実施
- 困窮世帯の子どもにノート・教科書・鉛筆などの学用品を提供
- 貯蓄グループや生産者グループの結成
- 乳幼児を育てる保護者を対象とした、栄養改善グループの設立
- 新型コロナウイルス感染症の予防に関する啓発活動および、小中学校に手洗い場を設置
- 小学校に衛生的なトイレを建設



学校に設置された手洗い場

第3期

2021 年度

▼
2025 年度

- 支援終了後の各活動の移行計画に関する、関係者との話し合い
- 貯蓄グループと金融機関を連携し、融資を支援
- 災害リスクを低減するための研修を実施
- 2,150人の子どもに健康保険証の取得を支援
- 子どもに対する暴力や児童婚をなくすための啓発会議やイベントを実施

※ライフ・スキル：日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、効果的に対処するために必要な能力。
例) ギャングからの勧誘を断る力や、家庭や地域内での対立に直面した際、建設的に解決しようとする力など



子どもの権利を書いた紙を掲げる「子ども議会」のメンバー

支援を受けたチャイルドのストーリー

「学校に通えるようになって、とてもうれしかったです」

ムワナミシさん
(21歳)

ムワナミシさんは、両親と5人のきょうだいと暮らしています。彼女は勉強が大好きでしたが、農業を営む一家の家計は苦しく、制服や文房具を買うこともままならなかったため、学校に通うことが難しい時期もありました。

そんな生活は、ムワナミシさんがチャイルド・スポンサーシップの支援を受け始めたことをきっかけに、大きく変化します。彼女の両親は地域の貯蓄グループに参加して、融資を受け、栽培する野菜の種類を増やしたほか、新たな商売を始めて家計を安定させることができたのです。「私もきょうだいたちも、きちんと学校に通えるようになって、とてもうれしかったです」

ワールド・ビジョンの活動によって、ムワナミシさんが通う学校で安全な水が使えるようになったり、清潔なトイレが建設されたりと、より良い環境で学べる環境が整えられたことも、彼女の勉強に対する意欲を大きく後押ししました。

「私は高校を卒業し、今は短期大学で経済学を学んでいます」と語るムワナミシさん。「幼い頃から私を支えてくれたワールド・ビジョン、チャイルド・スポンサーの皆さん、両親、そして地域を助けてくれたすべての人に心から感謝を伝えたいです。私が希望をもらったように、これからはほかの地域の子どもたちへの支援が続いていくことを願っています」

